

## お盆向け黄色コギク新品種「小夏の月」の特性

### 研究のねらい

コギクは、本県の花き栽培振興品目のひとつに位置づけて生産振興を図っています。しかし、コギクは露地栽培が中心のため気候の影響を受けやすく、また県外で育成された品種では、育成地と気候条件が異なるため、開花期がずれるなどの問題もありました。

そこで、本県の気候や栽培条件に適応し、お盆の需要期に安定して開花する品種の育成に取り組みました。

### 技術の特徴

#### 1 育成経過

- (1) 平成17年に品種「ぎんせい」と「こかげ」を交配し、平成18～21年に選抜と特性調査を行いました。
- (2) 平成20～21年に現地試験と市場調査を実施し、生産者や市場関係者から良好な評価を得ました。
- (3) 平成21年、農林水産省に品種登録出願し、平成23年3月18日に「小夏の月」として登録となりました。

#### 2 品種の特性

- (1) 自然開花期が8月上中旬で、開花調節を行わなくても、お盆の需要期に出荷できます（適応地域は県内の平坦～標高300m程度まで）。
- (2) 花色は鮮やかな明黄色で、深緑色の照葉との色の対比が美しく草姿に優れています（写真1、2）。
- (3) 慣行の方法で容易に栽培でき茎の伸長が良いため、上位規格の出荷割合が高まり、有利販売できます（写真2、3）。
- (4) 茎の下部からの側枝発生が少ないため、収穫後の調整が楽にできます（写真2）。



写真1 「小夏の月」の花形



写真2 草姿



写真3 花房部の拡大

### 今後の取り組み

- 1 平成22年春から生産者（県園芸協会花き部会員）に苗を配付し、昨年のお盆需要期に初出荷となりました。今年度はさらに出荷量の増加が見込まれています。
- 2 平成22年8月に品種登録になった白色コギク「小夏の風」と併せて、生産者・農業団体・県が一体となり、県オリジナル品種として生産及び販売に取り組みます。
- 3 農業技術センターでは、コギクのオリジナル品種のシリーズ化を計画しており、白色、黄色に続いて、赤色品種の育成に取り組んでいます。

（執筆者：村崎 衣里）